



2025年12月期（通期）

決算説明会

ペプチドリーム株式会社

2026年2月16日

本日の内容

- ① 2025年度の総括：主要トピックスと今後の方針
- ② 2025年度の連結決算業績と2026年度の見通し
- ③ 質疑応答

1

2025年度の総括： 主要トピックスと今後の方向性

What started as a **Dream**



...has become a **Reality**

ペプチドリームの成長と進化の軌跡

大学発スタートアップからグローバル製薬企業へ

創薬・開発パイプラインを通して
ステークホルダーの皆さまへ価値を創造

グローバル製薬企業

グローバル創薬・開発企業

スタート・アップ

- ✓ 革新的創薬プラットフォーム
“PDPS®テクノロジー”的創出
—環状ペプチドヒット化合物を同定
- ✓ 環状ペプチド創薬分野の発展を
支える基盤としての役割を果たす

2006

創業最初の10年

2016

次の10年

2026

今後10年とそれ以降

グローバル創薬企業

- ✓ 製薬業界全体にわたり長期間で
豊富な創薬共同研究開発を実施
- ✓ 5つのコア領域(RIおよびNon-RI)に
注力
- ✓ 自社創薬プログラムの開発を開始

共同研究開発・提携プログラムが
臨床段階へと進展

自社プログラムが
臨床段階へと進展

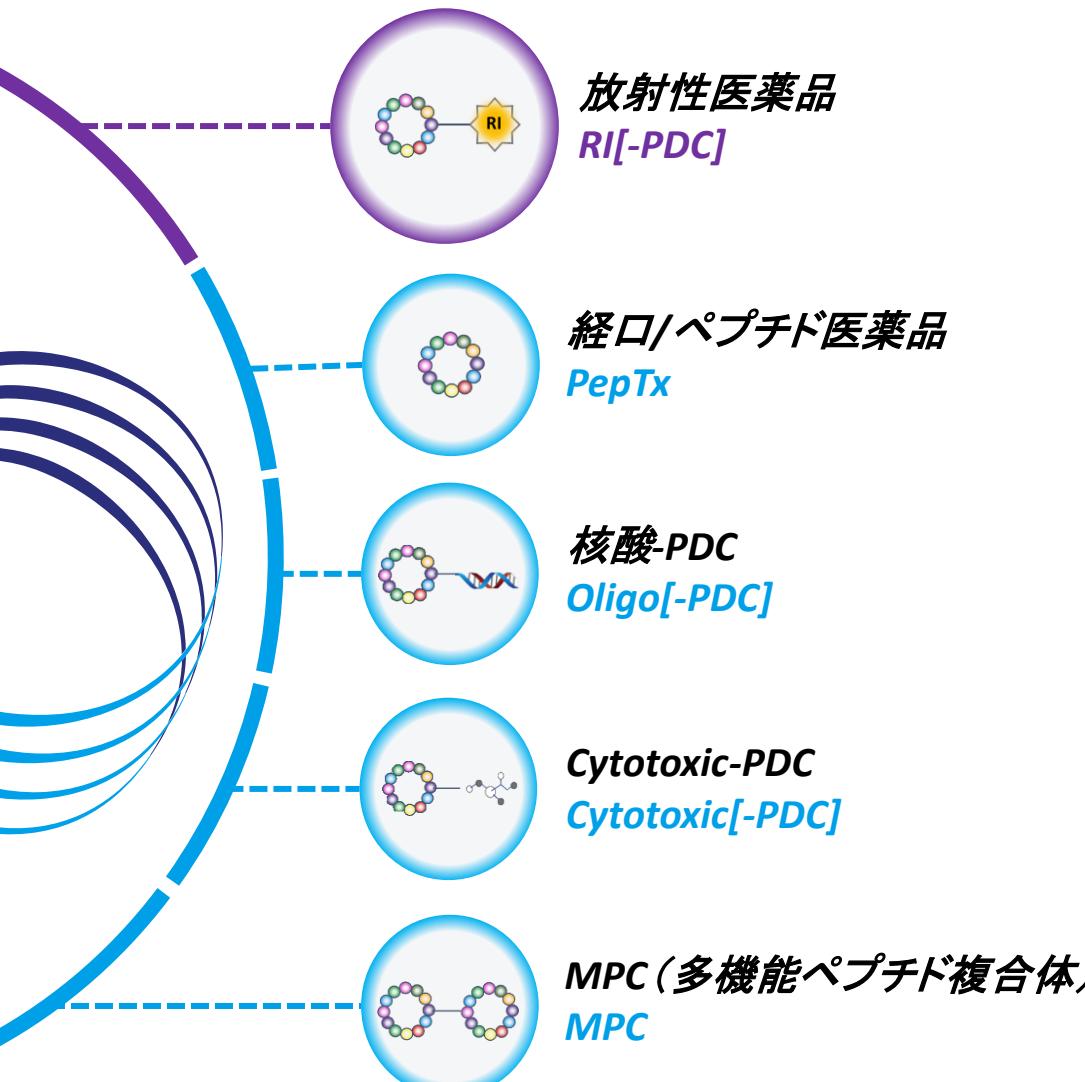
共同研究開発・提携・自社プログラ
ムのすべてにおいて5つのコア領域
の前臨床開発パイプラインが拡大

画期的な治療薬・診断薬
を患者さんに提供



ペプチドリームの5つのコア領域

創薬から臨床開発へ—5つのコア領域でバリューの高いパイプラインを構築



RI[-PDC]

- » PDRファーマは日本の放射性医薬品を牽引するリーディング・カンパニー
- » ペプチドリームのプラットフォームの創薬力は実証されており、標的型RIのリガンドである環状ペプチドの創製において多くの標的・がん種に対し**ベスト・イン・クラス**、**ファースト・イン・クラス**の実績

PepTx

- » ペプチドリームのプラットフォームの創薬力は実証されており、ペプチド・経口ペプチド領域の提携において**長期にわたる実績**を保有
- » ペプチド創薬の**豊富な経験と専門性**をもとに自社創薬の強固なパイプラインを構築

Oligo[-PDC]

- » 環状ペプチドをCNS組織(2017年より)や肝臓以外の組織(2021年より)への**核酸のデリバリー**に活用
- » 様々なパートナーの**治療ペイロード**と**自社創製ペプチド**の複合体を作製した実績を多数保有

Cytotoxic[-PDC]

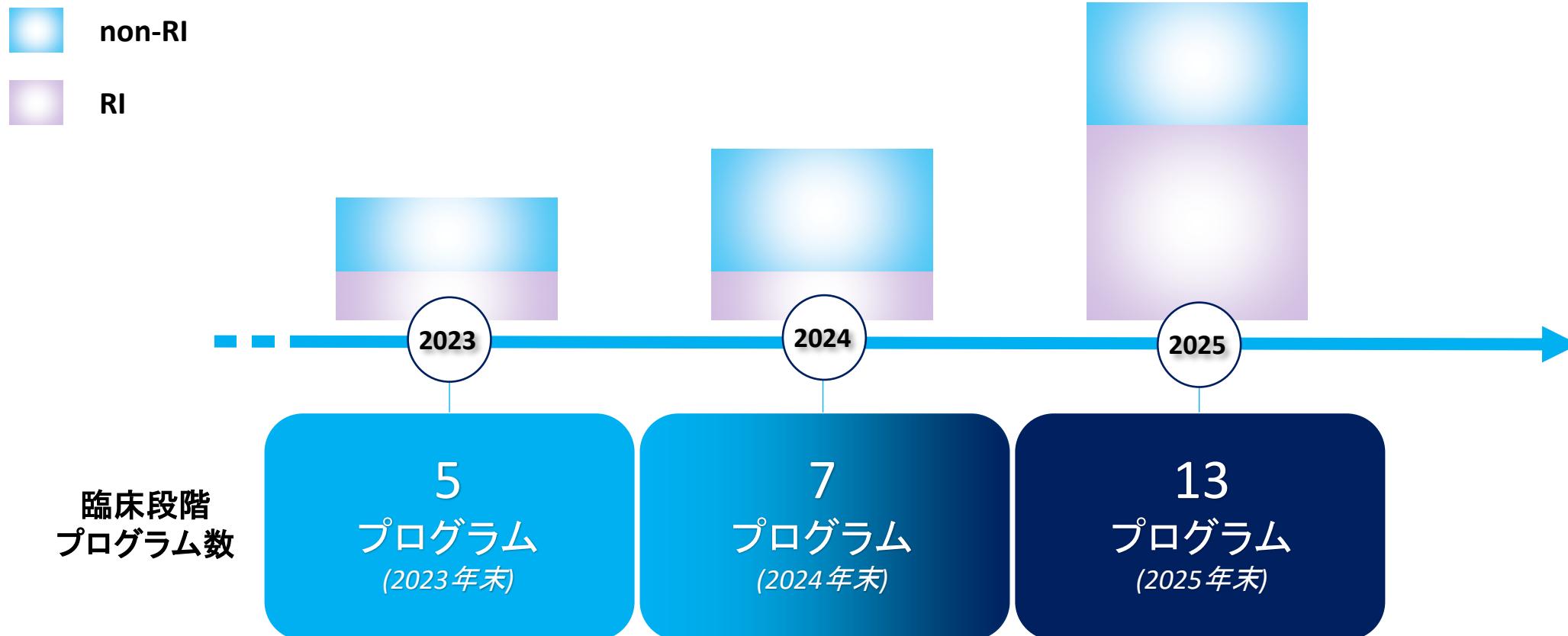
- » **がん組織を標的とした**環状ペプチドの創製・開発に関して多くの実績を保有しており、RIと細胞障害性ペイロードの両方のデリバリーに適用可能
—ADCと同様の効果が期待される
- » 細胞障害性ペイロードはパートナーより提供

MPC

- » 環状ペプチド創製のケイパビリティを**次世代の独自リンク**構造と組み合わせることにより、あらゆるタイプの高親和性・安定性を持つ多機能バイオロジクスをペプチドで代替可能

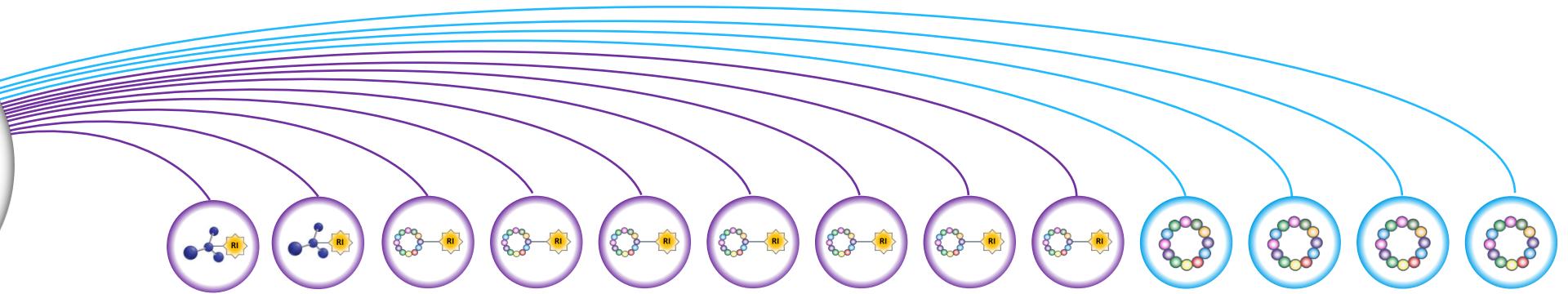
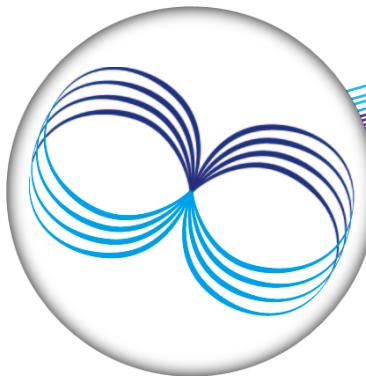
2025年の総括：臨床パイプラインが飛躍的に拡大

- ✓ 2025年に6つのプログラムが臨床開発段階に進展
- ✓ 合計13プログラムが臨床開発を実施中



2025年度の総括：パイプライン価値が牽引する新局面へ

2025年内に臨床開発が進展した13のプログラムを含む
パイプラインこそが将来の成長を支える最重要資産



臨床開発後期 (Ph2/Ph3)

- **¹⁷⁷Lu-PSMA I&T:** 国内Registrational試験開始
- **⁶⁴Cu-PSMA I&T:** 国内Registrational試験開始
- **ALXN2420:** グローバルPh2開始

臨床開発前期 (Ph1)

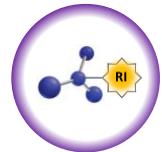
- **²²⁵Ac-GPC3:** グローバルPh1開始
- **⁶⁸Ga-GPC3:** グローバルPh1開始
- **¹⁷⁷Lu-FAP:** グローバルPh1開始
- **⁶⁸Ga-FAP:** グローバルPh1開始
- **S2タンパク阻害剤:** 米国Ph1完了

臨床開発準備 (IND/pre-IND)

- **²²⁵Ac-CA9:** 米国IND承認
- **⁶⁴Cu-CA9:** 米国IND承認
- **CDH3:** 臨床開発化合物の特定
- **IL-17 (経口):** 臨床開発化合物の特定
- **非開示 (炎症疾患):** 臨床開発化合物の特定

次なる成長を担う国内後期開発パイプラインが進捗

後期開発段階にある3プログラムが2027年～2029年の上市に向けて前進



177Lu-PSMA I&T

CURIUM™
LIFE FORWARD



開発状況:

Registrational Trial
ongoing



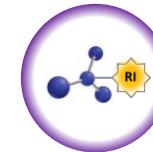
対象市場:

前立腺がん(治療)



Next:

国内承認申請
(2029年目標)



64Cu-PSMA I&T

CURIUM™
LIFE FORWARD



開発状況:

Registrational Trial
ongoing



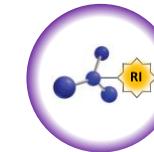
対象市場:

前立腺がん(診断)



Next:

国内承認申請
(2027年目標)



64Cu-ATSM

LM



開発状況:

Ph3 ongoing



対象市場:

悪性脳腫瘍

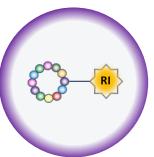
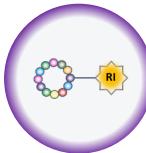


Next:

国内承認申請
(2027年目標)

グローバル提携プログラムが相次いで臨床試験を開始

当社RI-PDC創薬エンジンのアセット創出力（外部妥当性）を実証



$^{225}\text{Ac}/^{68}\text{Ga-GPC3}$

RayzeBio
A Bristol Myers Squibb Company



開発状況:

Ph1/1b ongoing



対象市場:

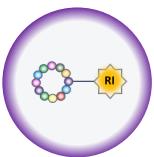
肝細胞がん



Next:

Ph1試験結果

(開示タイミングはRayzeBio社
/BMS社が主導)



$^{177}\text{Lu}/^{68}\text{Ga-FAP}$

NOVARTIS



開発状況:

Ph1 ongoing



対象市場:

**膵臓がん、肺がん、
乳がん、大腸がん等**



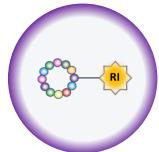
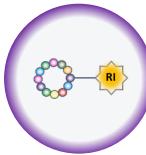
Next:

Ph1試験結果

(開示タイミングはNovartis社が
主導)

CA9の成功を起点に連鎖する自社RIパイプライン

CA9で確立した「臨床入りのプレイブック」をClaudin 18.2やCDH3へ展開



225Ac/64Cu-CA9

 **PeptiDream**
Revolutionizing Drug Discovery



開発状況:

US IND cleared



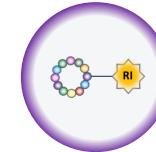
対象市場:

腎細胞がん



Next:

Ph1試験結果



225Ac/64Cu-CLDN18.2

 **PeptiDream**
Revolutionizing Drug Discovery



開発状況:

**Ph0 to initiate
Ph1 planning**



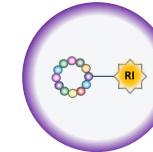
対象市場:

胃がん、膵がん



Next:

**Ph0試験結果／
Ph1開始**



CDH3

 **PeptiDream**
Revolutionizing Drug Discovery



開発状況:

開発候補化合物 選定



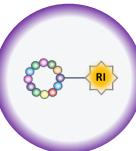
対象市場:

頭頸部扁平上皮がん



Next:

**IND申請に向けた試験／
Ph0計画**



事業変革のための施策

人材

組織の強化:セラノティクス開発・製造・規制の専門人材を集約
専門人材の高度化による治療領域拡大と開発スピード向上、
既存製品売上拡大、新製品上市

製造設備

製造キャパシティの拡大・インフラ整備
新規治療薬(Lu, Ac等)・診断薬の上市を見据えたキャパシティ拡張
(新工場建設を含む段階的キャパシティ拡張)

製品

診断中心から治療主導のポートフォリオへ収益構造の多角化
i. パートナリング (例: Amyvid, Tauvid, ATSM, PSMA)
ii. 日本の権利を保持し、提携を実施 (例: GPC3)
iii. 自社プログラム (例: CAIX, CLDN18.2, CDH3)

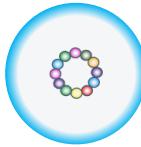


ラジオアイソトープのエキスパートとして、
人々の健康と医療の発展に
貢献してまいります。



将来の売上内訳イメージ

2. ペプチド医薬品



当社の確かなペプチド創薬力を活用—広がる無限の成長可能性

- 当社は注射剤・経口剤のペプチド医薬品領域において多くの提携プログラムを実施中
 - 10年以上にわたるペプチド創薬の高い経験・専門性を活用

近年承認取得／承認が近いペプチド医薬品一覧



Novo Nordisk, GLP-1アゴニスト 肥満症/糖尿病（2021年/2025年）



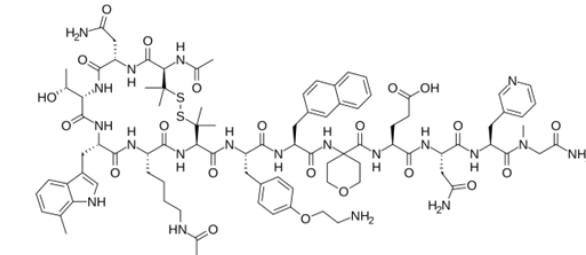
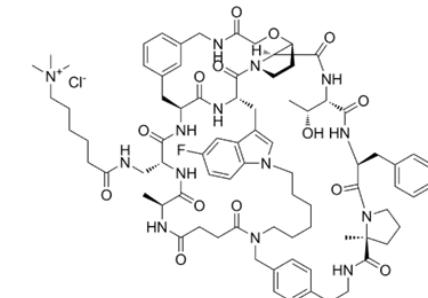
BioMarin, CNPミメティック 軟骨無形成症(2021年)



Apellis, C3阻害剤 地図状萎縮(2023年)



Eli Lilly, GIPアゴニスト 肥満症/糖尿病 (2022年)



Merck, PCSK9阻害薬 高コレステロール血症

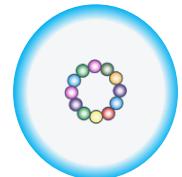
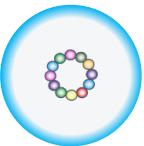


Icotrokinra J&J / Protagonist, IL-23R阻害剤 ラーク型乾癬

現在5プログラムが臨床開発段階にあり、前臨床段階にある提携プログラムに加え、自社開発による高付加価値プログラムも着実に拡大しており、強固なパイプラインを形成

ペプチド医薬品の臨床開発において複数の進展

当社創出品で初となるグローバルPh2試験入りを達成



ALXN2420

AstraZeneca



開発状況:

Ph2 ongoing



対象市場:

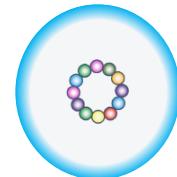
先端巨大症



Next:

Ph2試験結果

(開示タイミングはAlexion社
/AstraZeneca社が主導)



(非開示プログラム)

旭化成ファーマ



開発状況:

医薬品候補化合物 選定



対象市場:

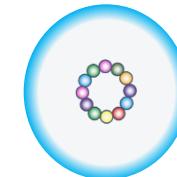
炎症疾患



Next:

Ph1開始

(開示タイミングは旭化成ファー
マが主導)



(非開示プログラム)

ジョンソン・エンド・ジョンソン



開発状況:

医薬品候補化合物 選定



対象市場:

炎症疾患



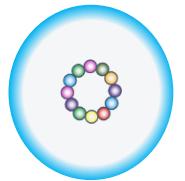
Next:

Ph1開始

(開示タイミングはジョンソン・エ
ンド・ジョンソン社が主導)

Non-RI領域の複数のモダリティで着実な研究開発進捗を達成

マイオスタチンに続く自社経口ペプチドプログラムが充実、提携交渉も併行して実施



経口 マイオスタチン 阻害薬

 PeptiDream
Revolutionizing Drug Discovery



開発状況:

医薬品候補化合物 選定



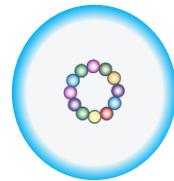
対象市場:

肥満・筋疾患等



Next:

IND申請のための試験
提携交渉



経口 IL-17A/F阻害薬

 PeptiDream
Revolutionizing Drug Discovery



開発状況:

医薬品候補化合物 選定



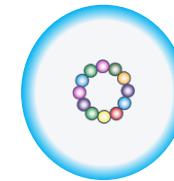
対象市場:

乾癬・自己免疫疾患



Next:

IND申請のための試験
提携交渉



経口ペプチドプログラム

 PeptiDream
Revolutionizing Drug Discovery



開発状況:

前臨床開発実施中



対象市場:

非開示

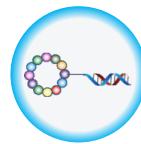


Next:

医薬品候補化合物 選定

3. 核酸PDC

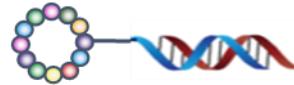
当社がパイオニアとして核酸医薬の標的デリバリーの新たな時代へ



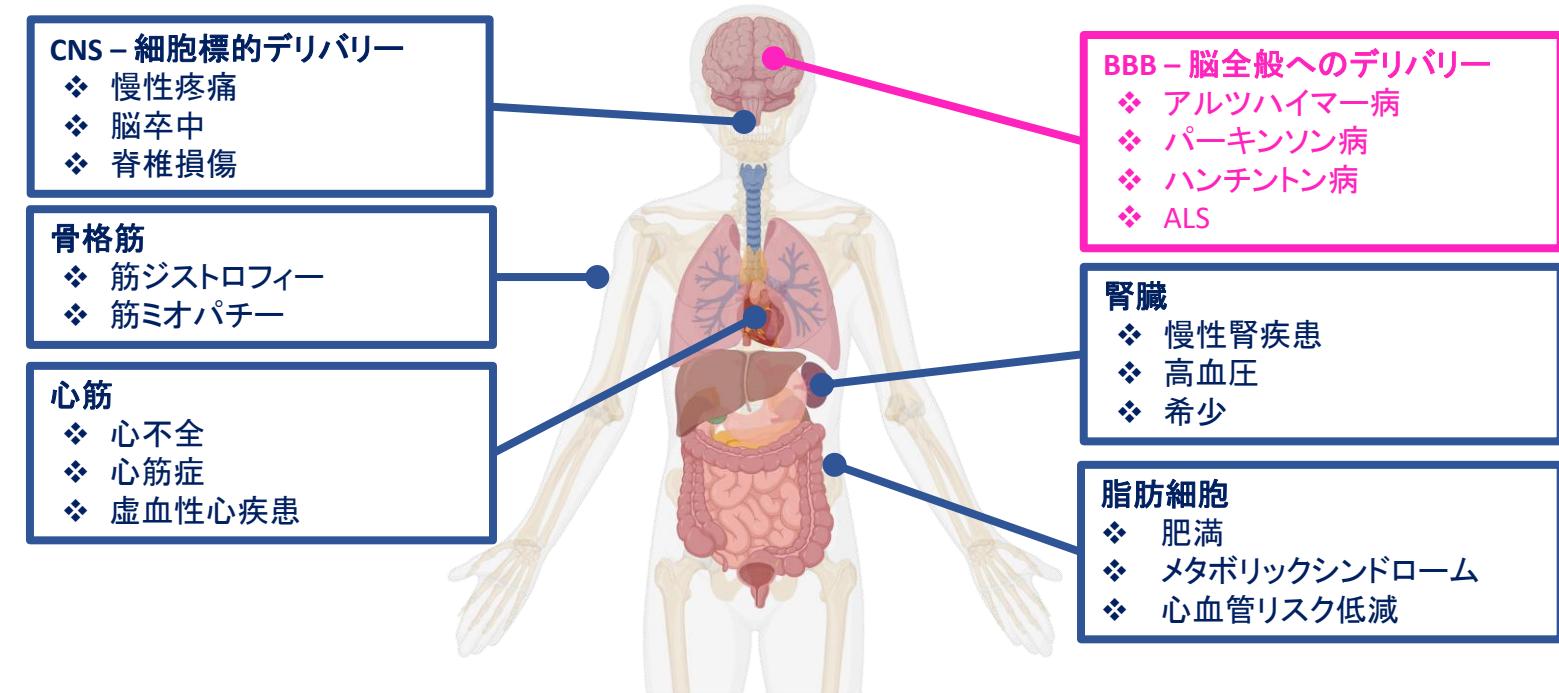
- ・ 強力な複数パートナーとの共同研究開発を実施
- ・ パートナーのペイロードと当社創製のデリバリーペプチドとの複合体の作製に豊富な経験を保有

核酸PDC

siRNA/ ASO/ HDO¹⁾



核酸ペイロードを目的の組織に選択的にデリバリー
✓ 脳、腎臓、心臓、筋組織、肺 等



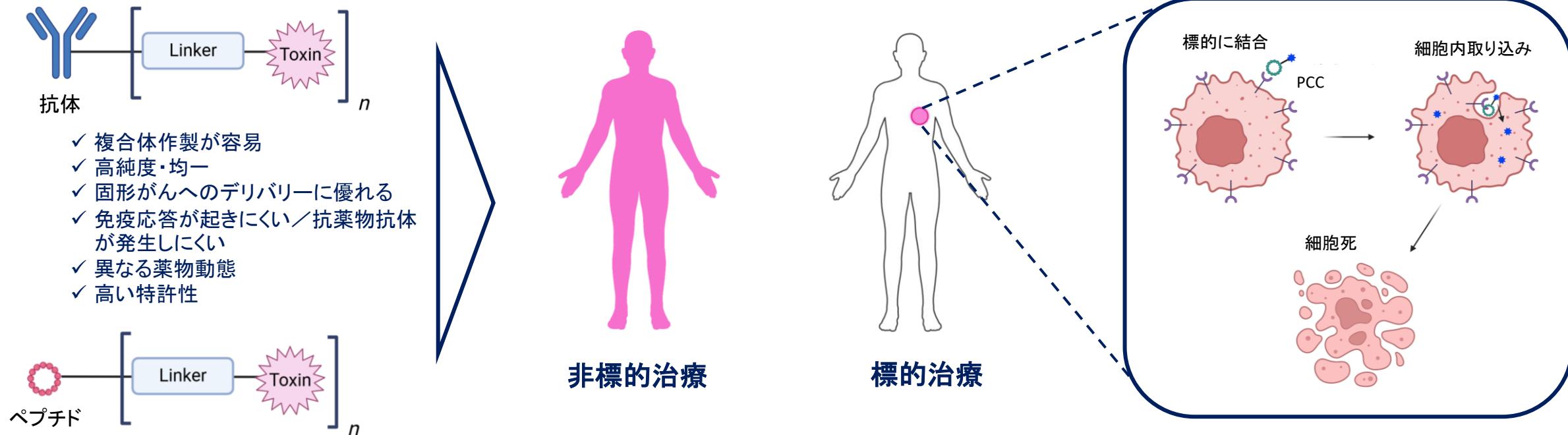
2025/12にAlnylam社との提携において非常に画期的な進展を発表: 核酸-ペプチド複合体が動物モデルにおいて肝臓以外の組織に特異的にデリバリーされたことを確認

4. PCCs (Peptide-Cytotoxic 複合体)

ADCに代わる有力な創薬アプローチ

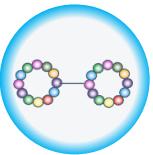


- 腫瘍を標的としたペプチドの創製・開発に関して多くの実績を保有しており、RIと細胞傷害性ペイロードの両方のデリバリーに適用可能、ADCと同等の効果が期待される



最初の開発候補化合物にむけ2025年に大きな進展、臨床開発に向け着実に進捗

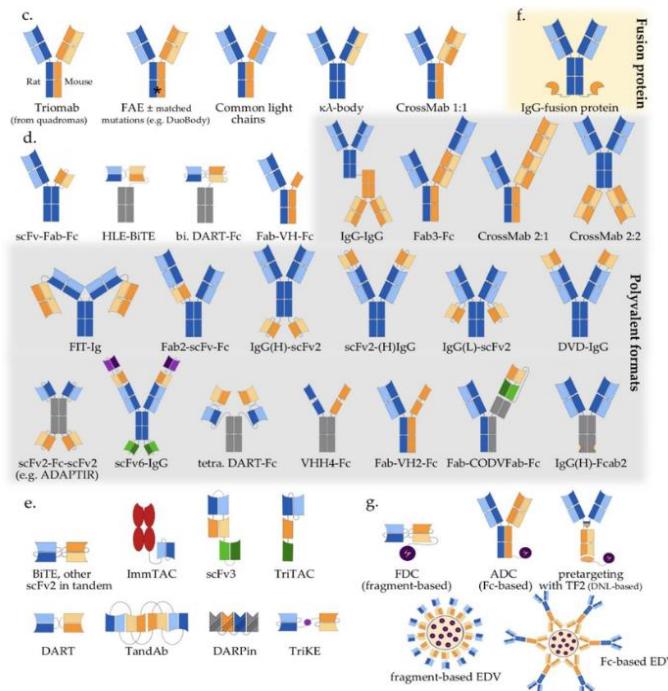
5. MPCs (多機能ペプチド複合体)



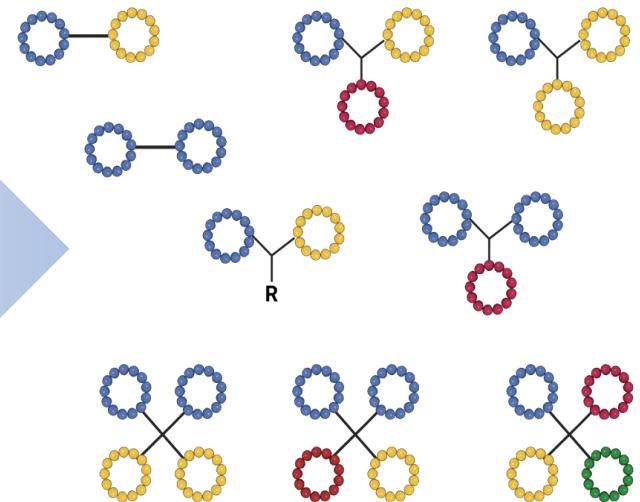
次世代免疫エンゲージャー

- 当社のペプチド創薬技術と次世代の独自リンカーアーキテクチャを組み合わせることで、さまざまなタイプの多特異性バイオロジクスを高親和性かつ安定した多機能ペプチド複合体で代替

複雑な構造の
次世代抗体を



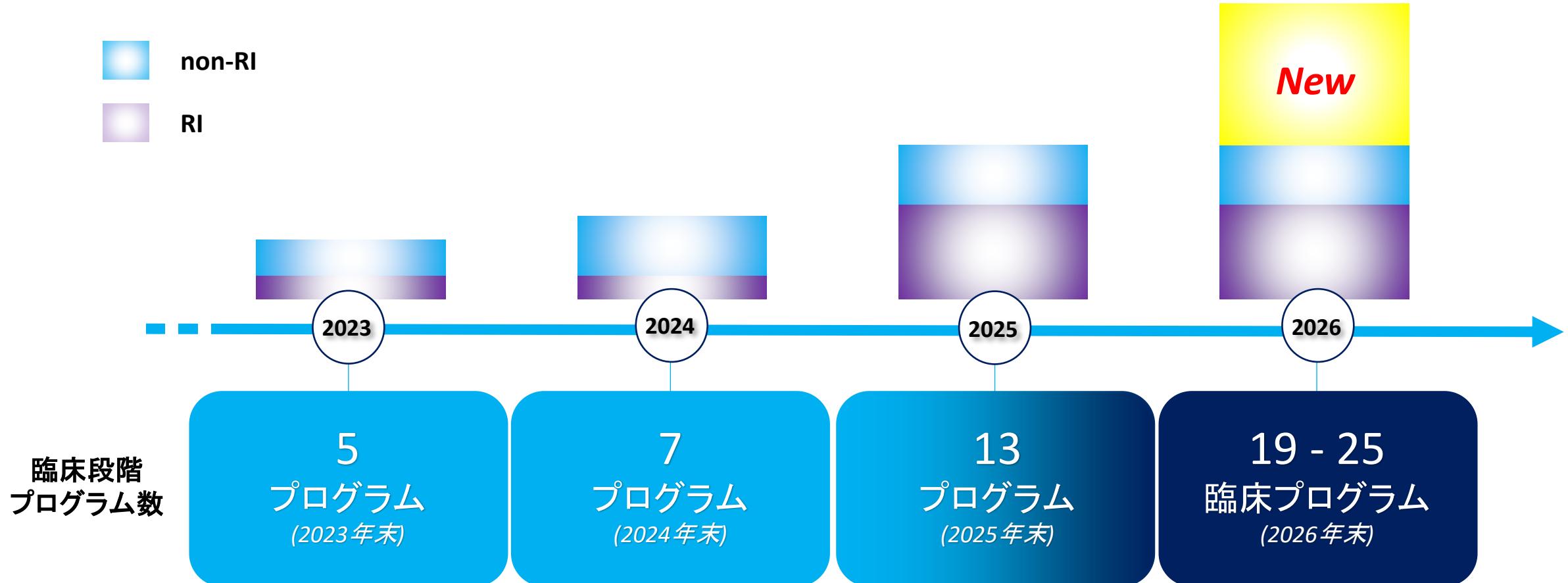
シンプルに
代替



2025年に*in vivo proof-of-concept*試験で良好な結果が得られ、
さらにプログラムの推進・拡大と提携可能性を検討

2026年も多くのプログラムの臨床入りを想定

- ✓ 2026年に6以上(～12)のプログラムの臨床入りを期待

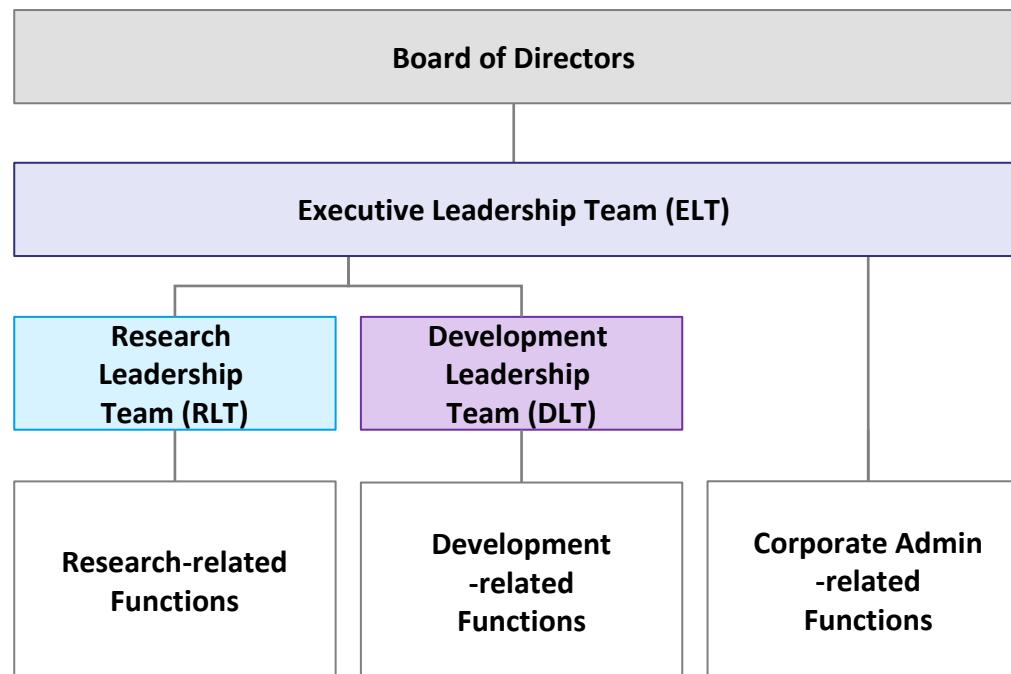


次なる成長フェーズの実現に向けて

企業の拡大を可能にする新たな組織とマネジメント体制を導入

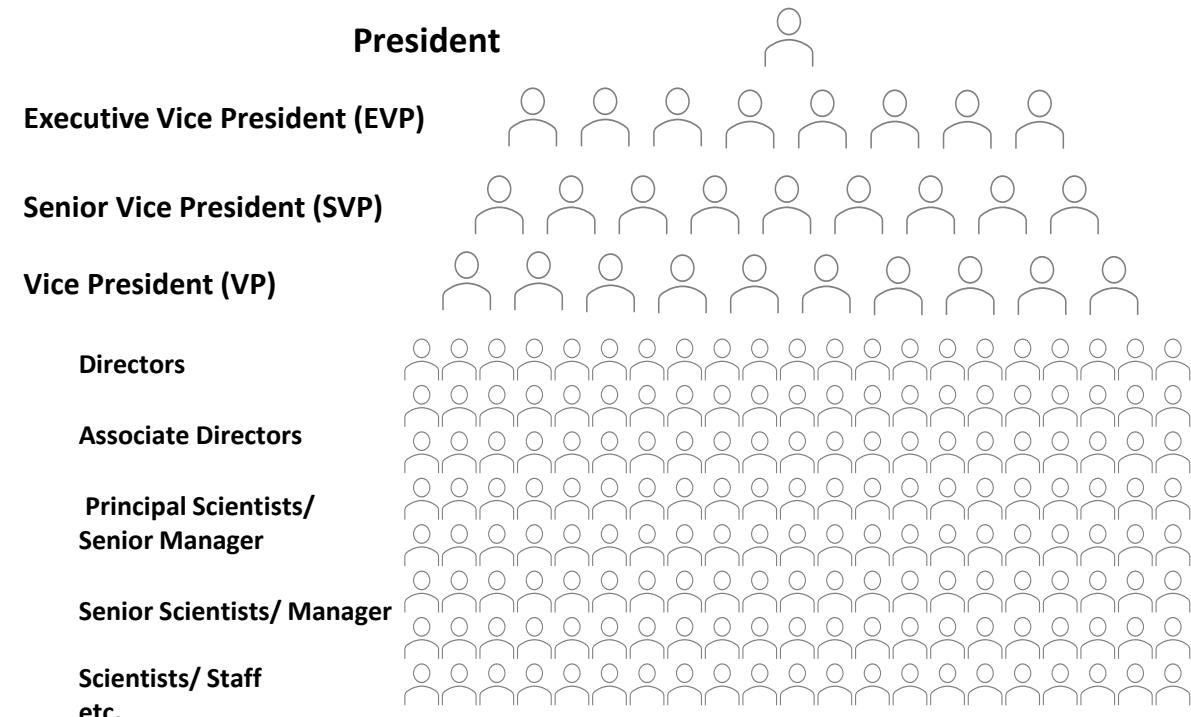
企業の拡大・透明性の向上・健全なコーポレートガバナンスの確保を可能にする新たな組織体制の導入

(現在の組織体制)



企業の拡大に対応し、経営体制およびコーポレートガバナンスを強化するため、EVP・SVP・VP制度を導入

(将来のマネジメント体制のイメージ)

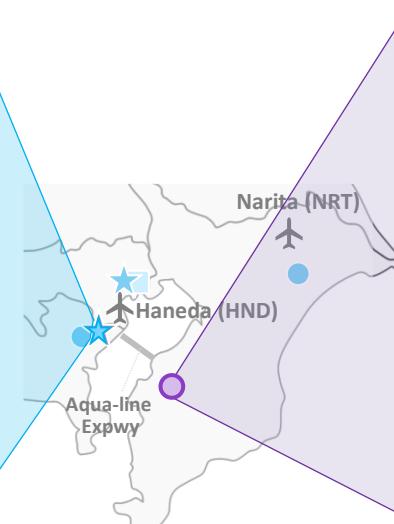


将来の成長のための投資

新研究棟: R&Dケイパビリティの拡大

着工: 2027年、操業: 2029年、建設費用: 120～150億円(現時点予定)

- ✓ 前臨床試験ケイパビリティの増強、CMC/製剤開発機能の拡大
- ✓ R&Dケイパビリティの拡大により、プログラム増強・スループット向上
- ✓ RI領域、Non-RI領域 両方における当社のR&D活動のハブとして機能



新製造設備: 自社RI医薬品の上市に向け

着工: 2026年後半、操業: 2028年、建設費用: 100～120億円(現時点予定)

- ✓ 放射性医薬品の製剤製造ラインを拡張、 ^{177}Lu , ^{225}Ac , ^{64}Cu 等の次世代核種に対応
- ✓ 日本に加え将来的にAPAC地域への拡大も視野に入れた製造能力の増強
- ✓ 良好的なアクセスを活かし、高い生産性と安定供給を達成



2

2025年度の連結決算業績と 2026年度の見通し

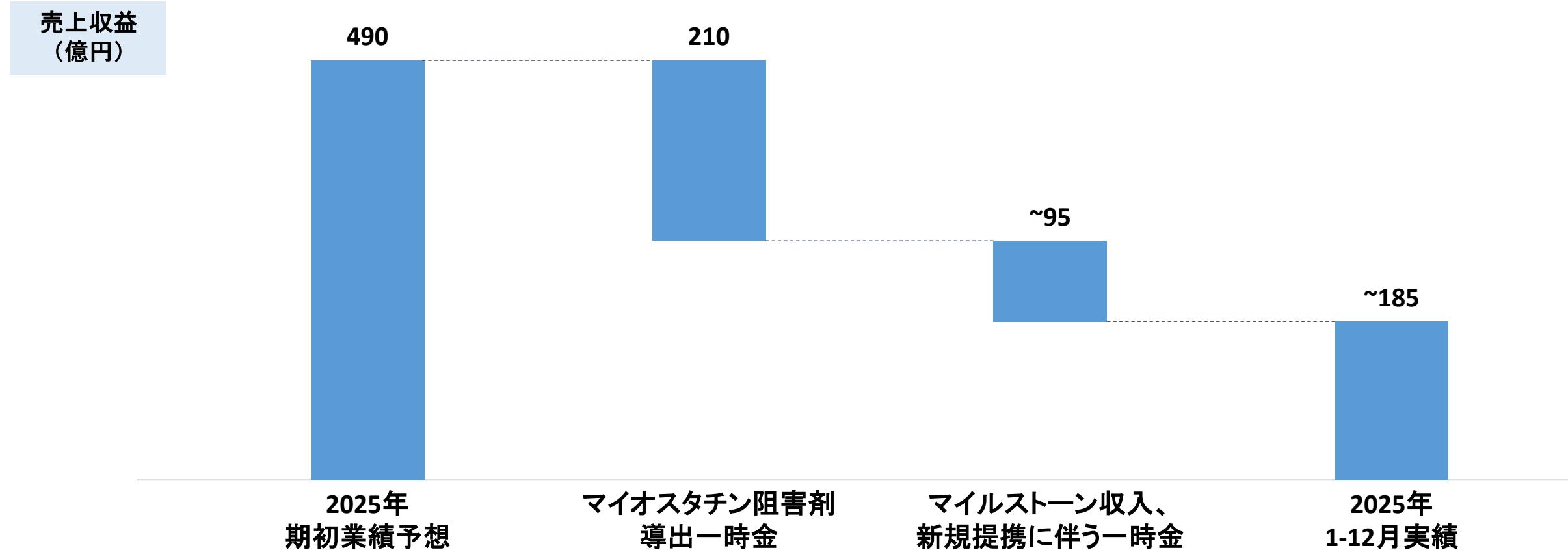
2025年12月期 連結業績概要

- 創薬開発事業では、経口マイオスタチン阻害剤の導出について2025年度中の締結に至らなかったことから、期初予想に対して大幅に未達
- 放射性医薬品事業では、成長ステージに入りつつあるPET事業が牽引する形で4期連続での黒字を維持

IFRS連結業績 (百万円)	2024年1-12月 実績	2025年1-12月 期初予想	2025年1-12月 修正後予想	2025年1-12月 実績
売上収益	46,676	49,000	18,000	18,521
① 創薬開発事業	31,313	-	-	2,793
② 放射性医薬品事業	15,363	-	-	15,727
EBITDA	23,425	-	-	▲2,822
Core営業利益	21,225	21,700	▲5,300	▲4,866
営業利益	21,113	21,600	▲5,400	▲5,013
当期純利益	15,014	15,100	▲4,000	▲3,749
当期包括利益	16,216	-	-	▲4,336
EPS (円)	115.85	-	-	▲28.99

2025年12月期 期初業績予想からの差分

- ・自社品である経口マイオスタチン阻害剤の導出について、最適なパートナーとの提携による価値最大化を優先し、2025年の締結は実施せず
- ・2025年度中に予定していた既存プログラムの開発マイルストーン達成、新規提携の締結時期が2026年度に期ずれ

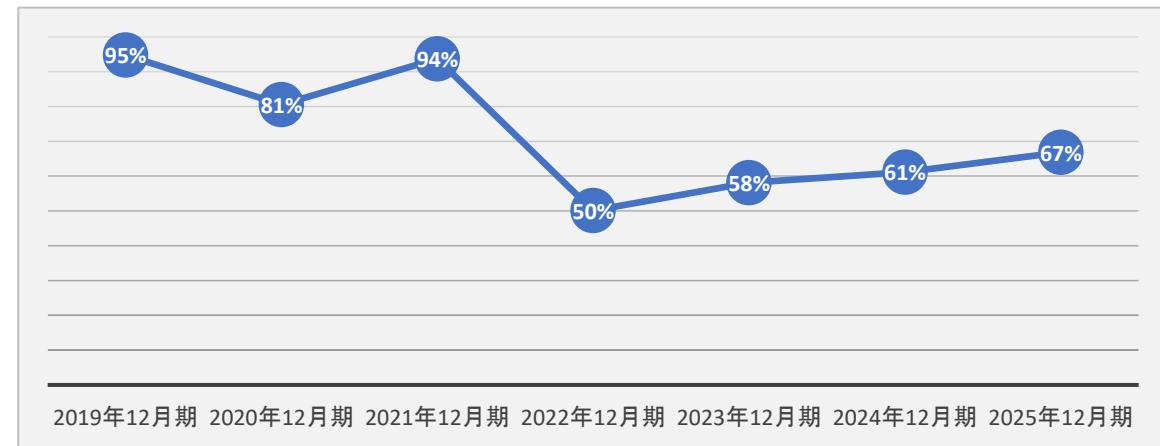


2025年12月期 連結バランスシート

連結貸借対照表(対前期末増減)

資産	負債・資本
流動資産 38,919(▲18,289)	負債 25,504(▲10,502)
非流動資産 38,113(+2,553)	純資産 51,528(▲5,234)
合計 77,033	77,033

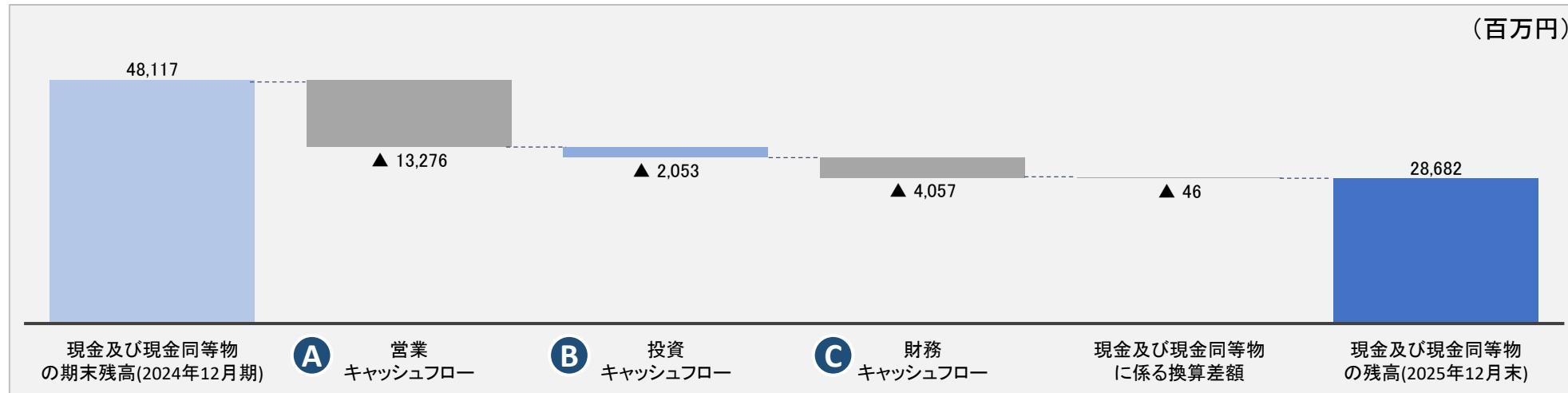
自己資本比率(親会社所有者帰属持分比率)



財務指標の見通し

- 自己資本比率(親会社所有者帰属持分比率)
2025年:2024年から+6ポイント改善、67%に
- ネットキャッシュ
2025年:ネットキャッシュ・ポジティブを維持

2025年12月期 連結キャッシュフロー



約133億円の減少

- 税金等調整前当期純利益▲53億円
- 減価償却費21億円
- 法人税等の支払(▲約81億円)等による減少

約21億円の減少

- ペプチドリームの研究機器取得(研究活動の推進)・PDRファーマの製造機器取得(製品製造キャパシティの拡大)等による減少

約41億円の減少

- 借入金の返済(▲約26億円)等による減少

2026年12月期 連結業績予想

提携交渉を継続するマイオスタチン阻害剤に加え、複数の種まき案件を積み上げることで安定収益の実現

2026年12月期 連結業績予想: 売上収益

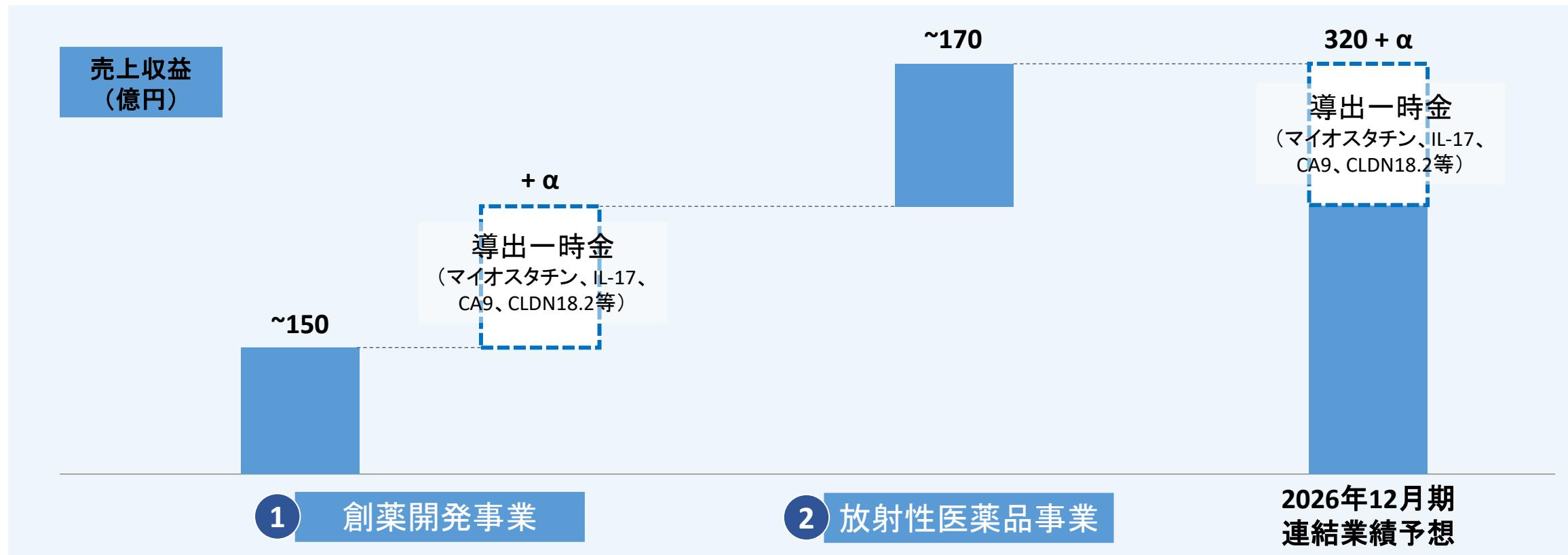
320億円 + 導出一時金

(マイオスタチン、IL-17、CA9、CLDN18.2等)

2026年12月期 連結業績予想: Core営業利益

46億円 + 導出一時金

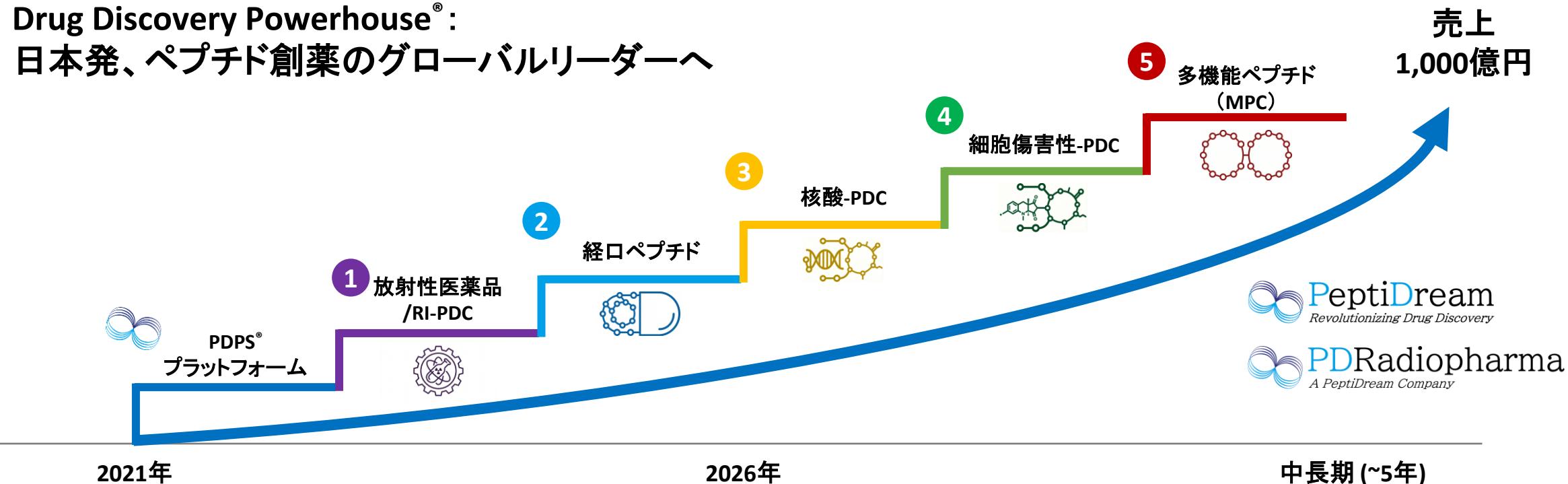
(マイオスタチン、IL-17、CA9、CLDN18.2等)



5つのコア領域で積み上がるアセットと新たな成長ステージ

ペプチドリームグループ 鍵となる成長ドライバーと中長期目標

Drug Discovery Powerhouse[®]:
日本発、ペプチド創薬のグローバルリーダーへ



プラットフォームによる安定した
キャッシュフロー創出

PDPS[®]プラットフォームを用いた提携により
創出される安定したキャッシュフローが、
自社パイプラインの開発コストを支える原資に

“Platform-Powered R&D Engine”

5つのコア領域で戦略的に積み上げる
パイプライン(資産)価値

モダリティの特性を最大限に活かせる
5つのコア領域にリソースを集約し、
次世代医薬品を戦略的に創出

“Science-Anchored Strategic Focus”

インフラの強みを融合した
独自の競合優位性

創薬から製造・販売・物流まで一気通貫での
放射性医薬品(RI)垂直統合プラットフォーム
の強みを活かした競合優位性の深化

“Infrastructure-Enabled Competitive Edge”

サステナビリティ（ESG）に関する取り組み

当社グループにおける主な取り組み



Environment (地球環境への配慮)

- 科学に基づく温室効果削減目標(Science Based Targets: SBT)の策定・認定取得
- 25年12月、PDRファーマ工場の太陽光発電設備が稼働開始。グループ全体の再エネ率80%以上を目指して能動的にCO₂排出量の削減



Social (社会への取り組み)

- 人材育成と従業員エンゲージメント加速
Valued Behaviorsを軸にした人事制度のアップグレード
- パラアスリートの活躍推進
当社所属選手で二人目となる日本代表選手に選出。Women's Cup(パリ開催)でベストプレイヤー賞を受賞



Governance (ガバナンス)

- 社外取締役への情報提供の充実等の取り組みを継続し、取締役会や監査等委員会による監督機能強化
- 業務執行役員、主要部門のリーダーを構成メンバーとする、Executive Leadership Teamの新設等による透明性の高い業務執行体制の構築

各評価機関からの評価



FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexに5年連続、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexに4年連続で継続選定



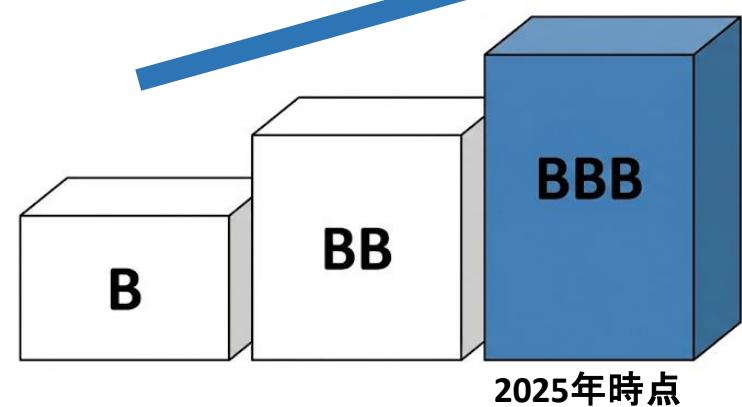
CDP気候変動レポート2025において最高評価「Aリスト」に初選定



CDPサプライヤー・エンゲージメント評価において、最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定



MSCIによるESGレーティングで初のBBBを取得



3

質疑応答

參考資料

ペプチドリームが目指す姿

当社が掲げる「ミッション・ビジョン・バリュー」の実現に向けて、着実に歩みを進めてまいります

世界をリードする
創薬バイオベンチャーとして



Mission

医療のあり方や患者さんの人生に
変革をもたらす次世代医薬品の創出

Vision

特殊環状ペプチドを用いて革新的な医薬品の
創出を先導し、世界中の患者さんのQOL向上
に貢献する「*Drug Discovery Powerhouse®*」を
目指します

Value

「誠実」であることを重要な行動規範とし、
各領域で「高い専門性」をもつ一人ひとりが、
次世代医薬品創出への「情熱」をもち、
世界中の研究者と協働する場でありたい

ペプチドリームグループの紹介

ペプチドリーム/ P D R ファーマ



日本を代表するバイオテック企業

- ペプチドリーム・グループは、ペプチドリーム(創薬開発事業)とPDRファーマ(放射性医薬品事業)からなり、環状ペプチドを活用したペプチド医薬品・ペプチド-薬物複合体(PDC)・放射性医薬品(治療薬/診断薬)の開発・製造・販売を行っている
- グループ全体で750人以上の従業員数



ペプチド創薬のグローバルリーダー

- ペプチドリーム(2006年設立)は、ペプチド創薬の領域でグローバルな地位を構築
- 多くのグローバル大手製薬企業とのパートナリングを拡大



国内での放射性医薬品領域を牽引

- PDRファーマ(1968年設立)は、国内で放射性医薬品事業を行う2社のうちの1社(8品目の放射性治療品、22品目の放射性診断薬)
- グローバルなパートナーシップを通じて国内での放射性医薬品領域のシェア拡大を目指す

★ 本社・研究所 ★ 新研究棟

PD Radiopharma
A PeptiDream Company

★ 本社

● 生産・研究拠点

■ 営業拠点(8拠点)

○ 放射性医薬品の新製造工場
(かずさアカデミアパーク)

PDRファーマ
本社(東京)

PDRファーマ千葉工場
(千葉県山武市)



PDRファーマ
茨木PETラボ



ペプチドリーム本社
(川崎)

ペプチドリークにおける研究開発機能の拡大

機能拡大に伴い、プログラムの価値向上とともに進捗に関する自社コントロールが拡大

研究開発における当社機能の拡大

研究開発機能 (2010年)

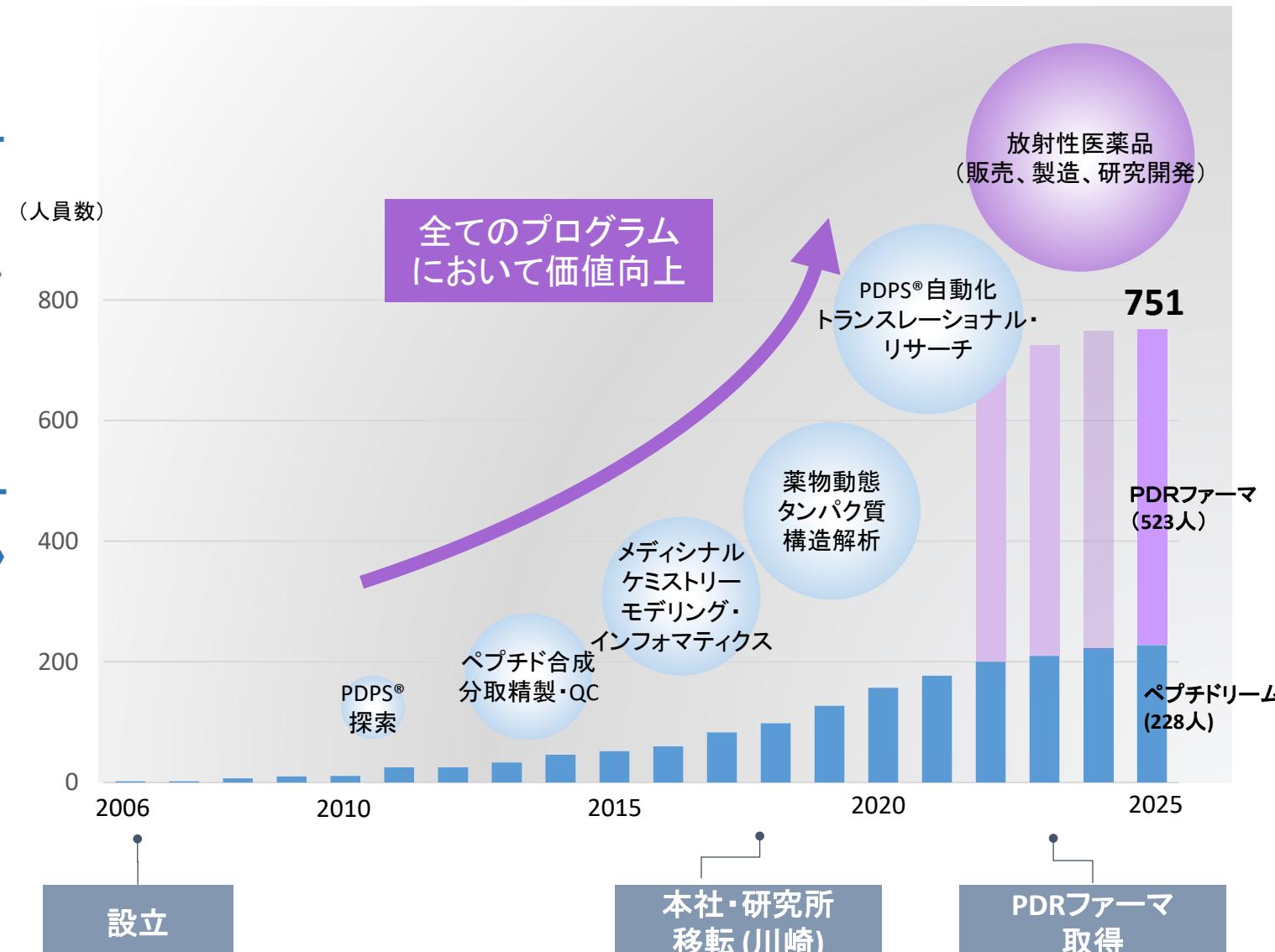


研究開発機能 (2026年)



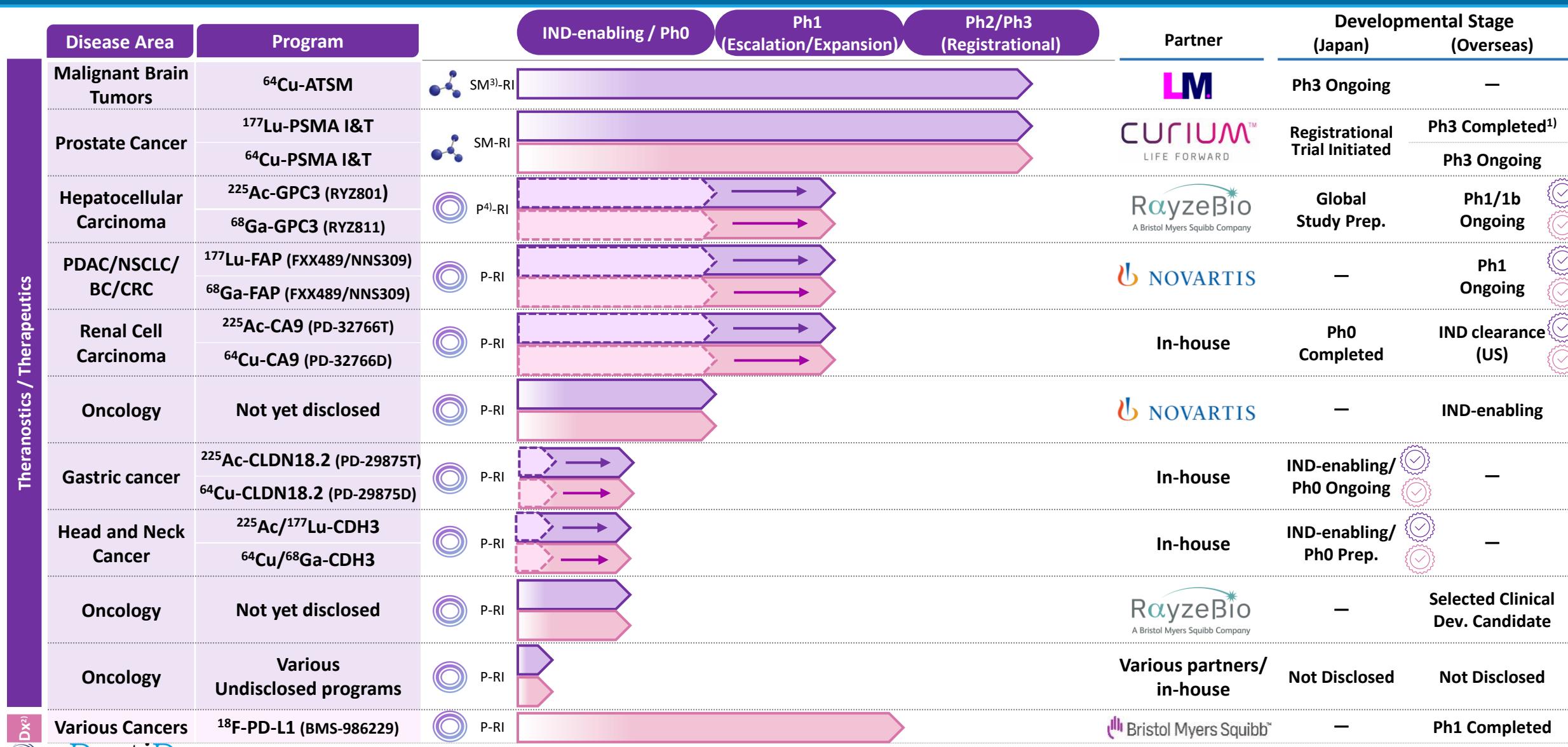
研究開発機能の強化によって得られる効果:

- パートナープログラムにおける役割の拡大
- プログラム進捗に関するコントロール向上
- プログラムの大型化
(ディールサイズの拡大)
- 共同開発、導出に向けた自社プログラムの価値向上
(より後期ステージまでの進捗)



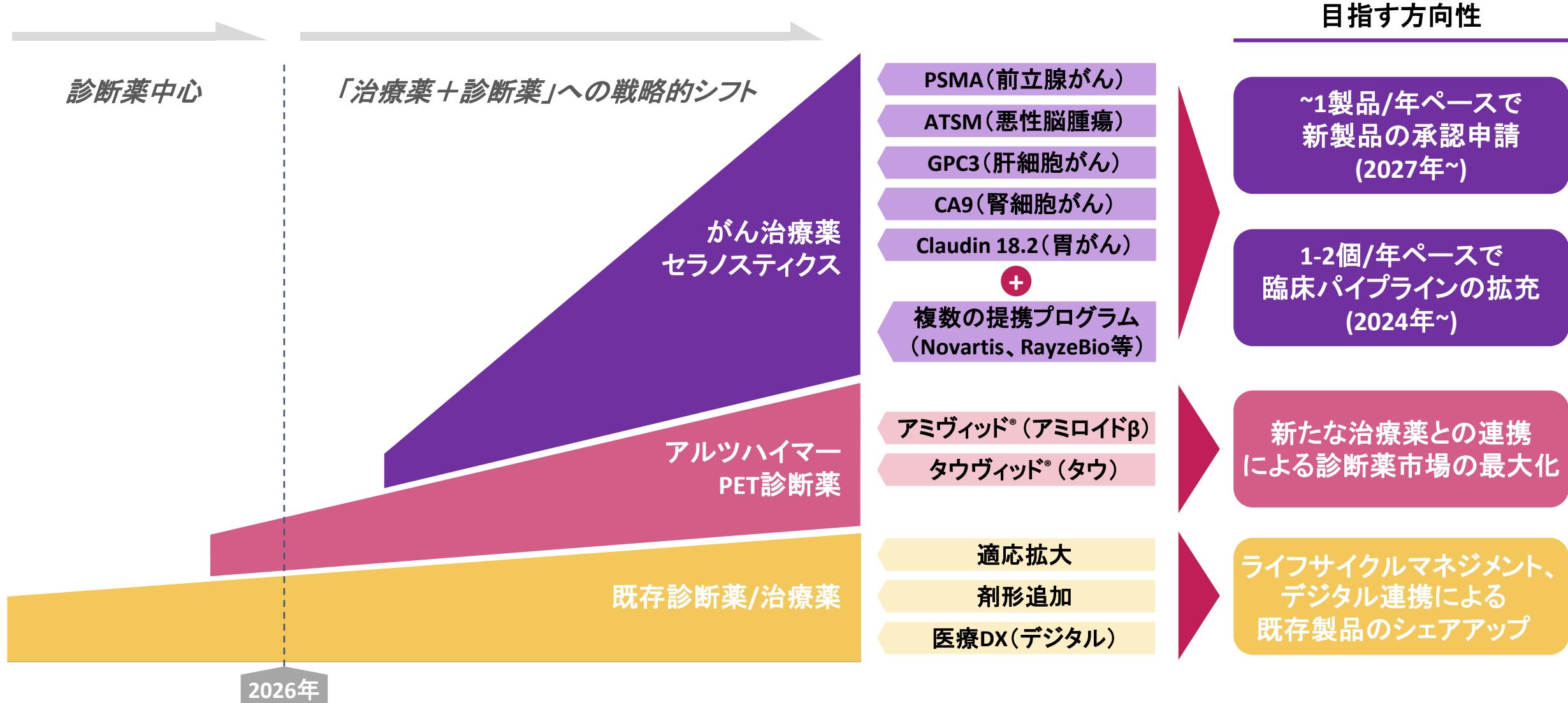
パイプライン全体像：放射性医薬品領域

2025年の進展



成長ドライバー：放射性医薬品 (RI) 領域

持続的なパイプラインの拡充やステージアップへの積極投資により、今後の成長を最大化



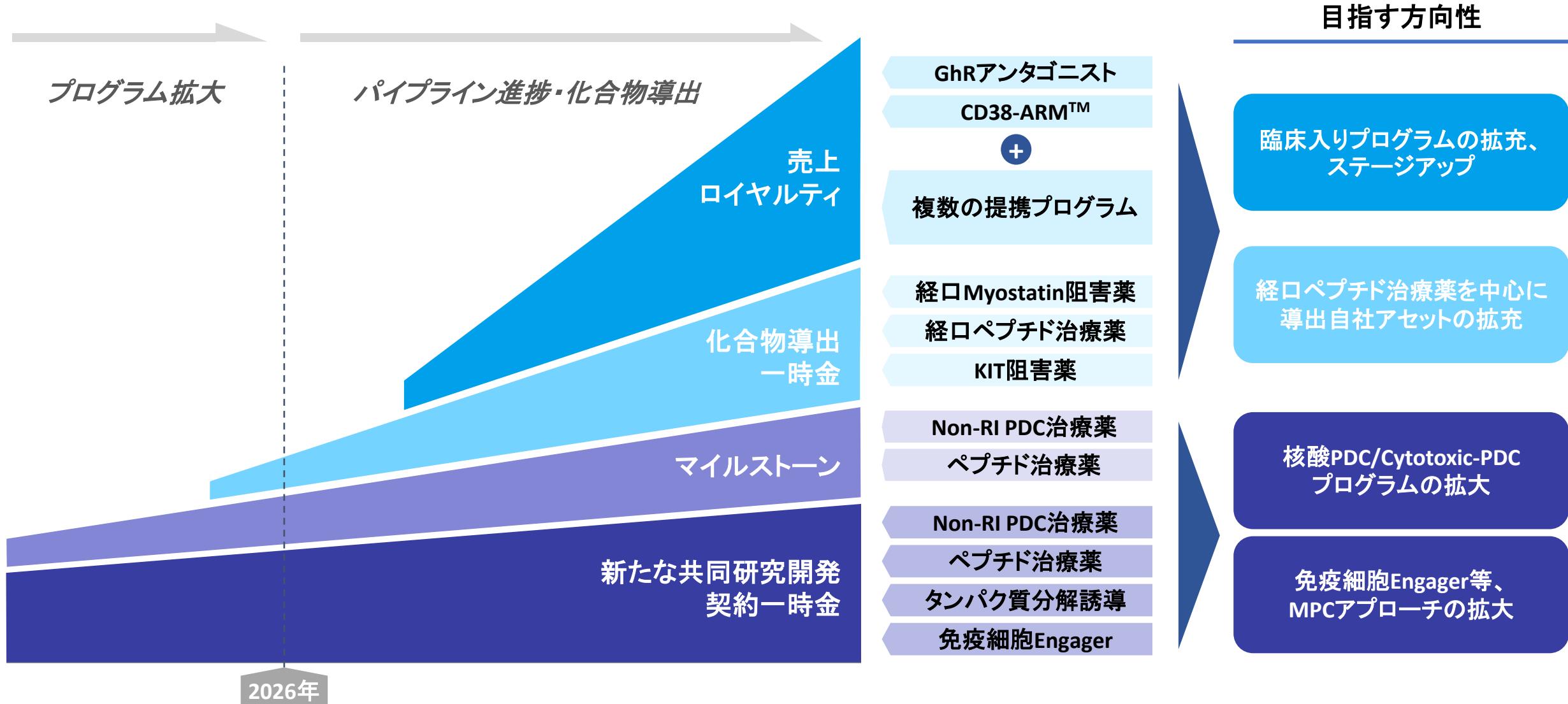
パイプライン全体像：Non-RI領域

→ 2025年の進展

Clinical Programs	Disease Area	Program	Pre-clinical/ IND-enabling	Ph1	Ph2	Ph3	Partner	Development Stage (Japan)	Development Stage (Overseas)	
	Acromegaly	GhR Antagonist (ALXN2420)	Peptide	Pre-clinical/ IND-enabling	Ph1	Ph2	Ph3	AstraZeneca	—	Ph2 Ongoing
	Multiple Myeloma	CD38-ARM™ (BHV-1100 + NK)	MPC	Pre-clinical/ IND-enabling	Ph1	Ph2	Ph3	Biohaven	—	Ph1a/1b Completed
	COVID-19	S2-protein Inhibitor (PA-001)	Peptide	Pre-clinical/ IND-enabling	Ph1	Ph2	Ph3	PeptiAID	Clinical Research Completed	Ph1 Completed
	Not Disclosed	Merck (Not disclosed)	Peptide	Pre-clinical/ IND-enabling	Ph1	Ph2	Ph3	MERCK ¹⁾	—	Ph1 Ongoing
	Inflammatory Diseases	Merck (Not disclosed)	Peptide	Pre-clinical/ IND-enabling	Ph1	Ph2	Ph3	MERCK ¹⁾	—	Ph1 Ongoing
Select Pre-Clinical Programs	Allergic Diseases	KIT Inhibitor (MOD-B)	SM	Pre-clinical	Ph1	Ph2	Ph3	Alivexis	IND-enabling	—
	Obesity/ Muscle Disorders	Oral Myostatin Inhibitor	Peptide	Pre-clinical	Ph1	Ph2	Ph3	In-house	Pre-clinical	Obesity
	Inflammatory Diseases	Not yet disclosed	Peptide	Pre-clinical	Ph1	Ph2	Ph3	Asahi Kasei Pharma	IND-enabling	—
	Inflammatory / Immunology	Oral IL-17A/F Inhibitor	Peptide	Pre-clinical	Ph1	Ph2	Ph3	In-house	Pre-clinical	—
	Inflammatory Diseases	Not yet disclosed	Peptide	Pre-clinical	Ph1	Ph2	Ph3	Johnson & Johnson	Pre-clinical	—
	Not Disclosed	Oral/ Peptide Therapeutics	Peptide	Pre-clinical	Ph1	Ph2	Ph3	Various Partners/ in-house	—	—
	Not Disclosed	Oligo-PDC	Oligo-PDC	Pre-clinical	Ph1	Ph2	Ph3	Various Partners	—	—
	Not Disclosed	Cytotoxic-PDC	Cytotoxic-PDC	Pre-clinical	Ph1	Ph2	Ph3	MERCK ¹⁾	—	—
	Not Disclosed	MPCs (Immune Engagers, etc.)	MPC	Pre-clinical	Ph1	Ph2	Ph3	In-house	—	—

成長ドライバー：Non-RI領域

臨床パイプラインの進捗に加えて、経口ペプチドやPDC/MPCプログラムによる成長を加速



RI領域：関連市場情報

プログラム	適応症	患者数 (年)	市場規模 (年)	主要製品売上 (年)	開発状況
⁶⁴ Cu-ATSM 放射性医薬品	悪性神経膠腫	新規患者数 321,731人 (グローバル, 2022) ⁽¹⁾	44億ドル (グローバル, 2031) ⁽²⁾	-	第3相試験実施中(国内)
¹⁷⁷ Lu/ ⁶⁴ Cu-PSMA I&T 放射性医薬品	前立腺がん	新規患者数 1,467,854人 (グローバル, 2022) ⁽¹⁾	231億ドル (グローバル, 2030) ⁽³⁾	Pluvicto® \$1,392m (2024) ⁽⁴⁾	第3相試験実施中(米国) 第2相試験実施中(日本)
²²⁵ Ac/ ⁶⁸ Ga-GPC3 RYZ801/811 RI-PDC	肝細胞がん	新規患者数 866,136人 (グローバル, 2022) ⁽⁵⁾	53億ドル (主要8か国, 2029) ⁽⁶⁾	Lenvima® \$653m (2024) ⁽⁴⁾⁽⁷⁾	第1/1b相試験実施中(米国)
¹⁷⁷ Lu/ ⁶⁸ Ga-FAP FXX489 RI-PDC	固形がん	新規患者数 7,214,932人 (グローバル, 2022) ⁽¹⁾⁽⁸⁾	87億ドル (グローバル, 2035) ⁽⁹⁾	-	第1相試験実施中 (グローバル)
²²⁵ Ac/ ⁶⁴ Cu-CA9 PD-32766 RI-PDC	腎細胞がん	新規患者数 431,288 (グローバル, 2020) ⁽¹⁰⁾	10億ドル (グローバル, 2029) ⁽¹¹⁾	Cabometyx® \$1,776m (2024) ⁽⁴⁾	第0相試験完了(国内) 第1相試験実施中(米国)
²²⁵ Ac/ ⁶⁴ Cu-CLDN18.2 PD-29875 RI-PDC	胃がん	新規患者数 968,784人 (グローバル, 2022) ⁽¹⁾	108億ドル (グローバル, 2030) ⁽³⁾	Opdivo \$1,256m (2024) ⁽⁴⁾⁽¹²⁾	第0相試験準備中(国内)
CDH3 RI-PDC	頭頸部がん	新規患者数 758,020人 (グローバル, 2022) ⁽¹⁾	62億ドル (グローバル, 2033) ⁽³⁾	Keytruda® \$3,007m (2024) ⁽⁴⁾⁽¹³⁾	開発候補化合物発表
合計			595億ドル	80億ドル	

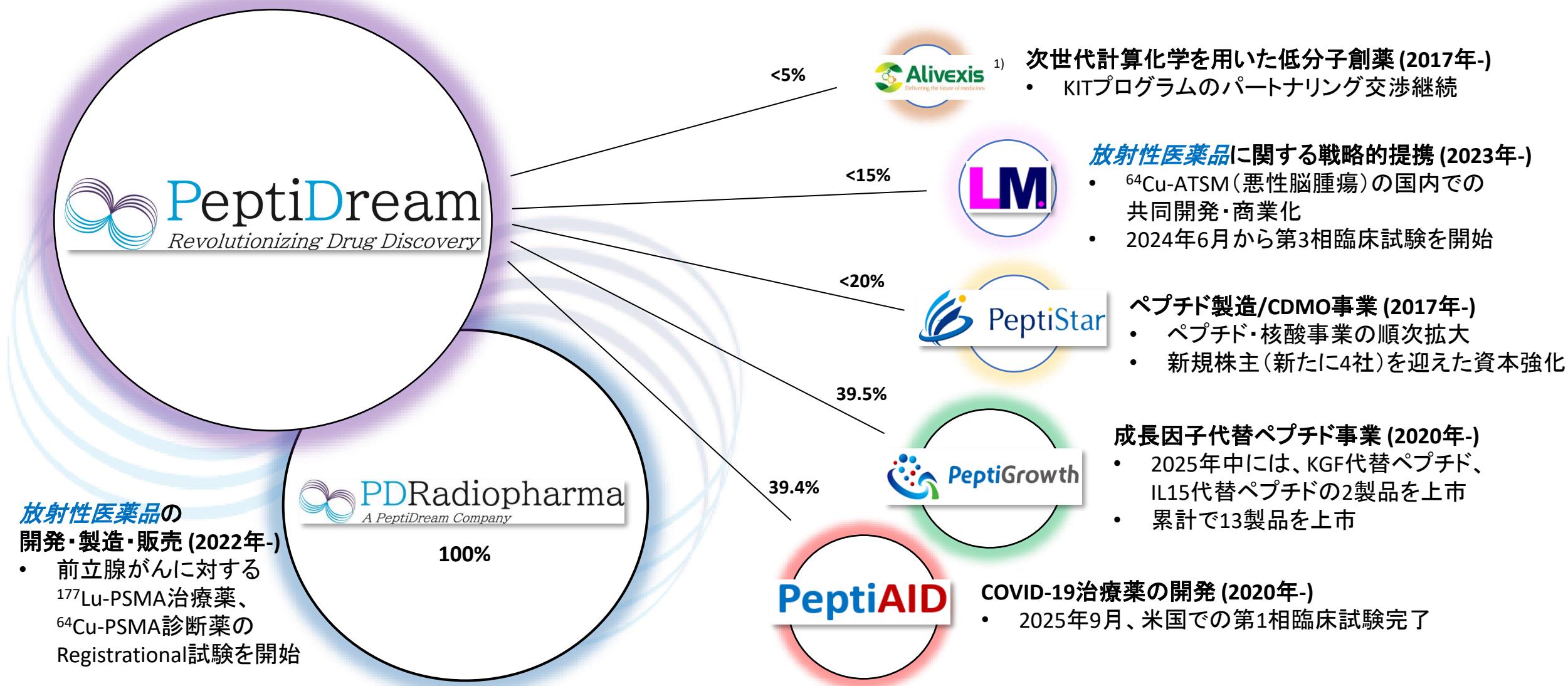
Source: (1) WHO the global cancer observatory (2) Research and Markets (3) Grand View Research (4) Evaluate (5) Nat. Rev. Disease Primers, 7:6 (6) GlobalData (9) Market Research Future (10) Eur. Urol. 82 529-542 (11) DataBridge (15) Fortune Business Insights (14) WHO Coronavirus (COVID-19) Dashboard (15) WHO (16) Bloomberg

Note: 主要8か国: 米国、日本、英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、中国 (7) 肝臓がんの売上 (8) 肺がん、すい臓がん、大腸がん、乳がんの合計 (12) 胃がんの売上 (13) 頭頸部がんの売上

Non-RI領域：関連市場情報

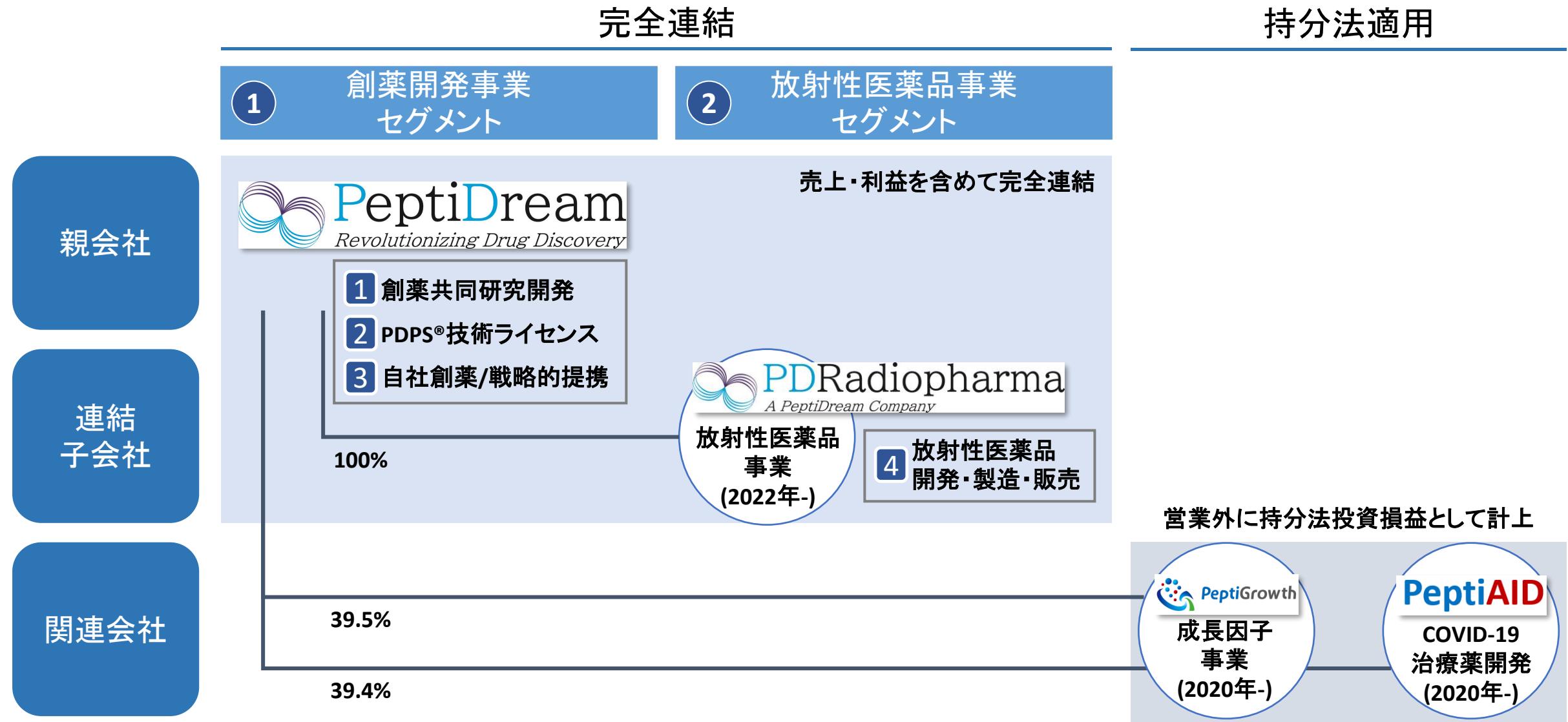
プログラム	適応症	患者数 (年)	市場規模 (年)	主要製品売上 (年)	開発状況
GhR AZP-3813 ペプチド治療薬	先端巨大症	新規患者数 56,000人 (グローバル, 2022) ⁽¹⁾	13億ドル (グローバル, 2021) ⁽²⁾	Somavert® \$256m (2024) ⁽³⁾	第2相試験実施中(グローバル)
CD38-ARM™ BHV-1100 + NK Cells MPC治療薬	多発性骨髓腫	新規患者数 187,952人 (グローバル, 2022) ⁽⁴⁾	310億ドル (グローバル, 2026) ⁽⁵⁾	Darzalex® \$11.6bn (2024) ⁽³⁾	第1a/1b相臨床試験完了(米国)
S2-protein PA-001 ペプチド治療薬	新型コロナウイルス感染症	777百万人 (グローバル, 累計) ⁽⁶⁾	77億ドル (グローバル, 2023) ⁽³⁾⁽⁷⁾	Paxlovid® \$5.7bn (2024) ⁽³⁾	第1相試験完了(米国)
Myostatin ペプチド治療薬	肥満／SMA／DMD ／筋疾患	650百万人 ⁽⁸⁾ (グローバル, 2016) ⁽⁹⁾	440億ドル (グローバル, 2030) ⁽¹⁰⁾	Ozempic® \$17.4bn (2024) ⁽³⁾	前臨床試験実施中(肥満モデル・バイオアベイラビティ)
IL-17 ペプチド治療薬	乾癬	患者数43百万人 (グローバル) ⁽¹¹⁾	729億ドル (グローバル, 2034) ⁽⁵⁾	Cosentyx® SC \$4,955m (2024) ⁽³⁾	前臨床試験結果発表
合計			1,569億ドル	399億ドル	

戦略的投資先・関連会社における主な進捗



ペプチドリーム・グループの連結・持分法適用会社

完全連結対象として”2セグメント・4事業戦略”を展開



 PeptiDream
Revolutionizing Drug Discovery

Note: ペプチスター Alivexis リンクメドについて、当社が保有する株式価値の増減分を包括損益として計上

2025年12月期 決算説明会

2025年12月期 Core/Non-core調整について

2025年1-12月実績					Non-Core調整 主な内訳
連結業績 (百万円)	Core業績	M&A関連費用 (Non-Core調整)	無形資産他 (Non-Core調整)	IFRS業績	
売上収益	18,521	-	-	18,521	M&A関連費用
売上原価	10,848	150	-	10,998	• PDRファーマ取得に係る会計処理の影響 (147百万円)
経費	12,538	▲3	-	12,535	
販売費・一般管理費等	7,522	▲10	-	7,512	
研究開発費	5,015	7	-	5,022	
営業利益	▲4,866	▲147	-	▲5,013	

ペプチドリーム マネジメントチーム



代表取締役社長CEO リード・パトリック (Ph.D.)

- 当社創業メンバー
- 東京大学国際産業共同研究センター 特任助教授を経て、2007年1月から当社CSO、研究開発部長
- 2017年に代表取締役社長就任(現任)
- Dartmouth Medical SchoolにてPh.D.取得(バイオケミストリー)



取締役副社長CFO 金城 聖文 (Ph.D.)

- (株)ボストン・コンサルティング・グループ(BCG)パートナー & マネージングディレクターを経て、2018年1月に当社入社
- PDRファーマ(株)取締役、ペプチグロース(株)取締役を兼任
- 東京大学にて博士課程修了(工学)



チーフ・メディカル・オフィサー PDRファーマ(株)代表取締役社長 村上 雅人 (MD, Ph.D., MBA)

- 第一三共(株)バイオマーカー推進部長、グローバルプレシジョン メディシン部長を経て、2022年1月に当社入社
- ペプチエイド(株)代表取締役社長を兼任
- 東海大学医学部卒業後、病理医として勤務
- 東京大学にて博士課程修了(医学)



チーフ・サイエンティフィック・オフィサー Christian Cunningham (Ph.D.)

- Genentech社ペプチド創薬部門Distinguished Scientist & Director を経て、2024年4月に当社入社
- カリフォルニア大学サンフランシスコ校にてPh.D.取得
- Stanford Universityにて博士研究員



事業開発部 部長 陳 彦廷 (Ph.D.)

- ローカスト・ウォーク・ジャパン合同会社ヴァイスプレジデントを経て、2022年5月に当社入社
- Brown UniversityにてPh.D.取得(ケミストリー)



IR広報部 ディレクター 沖本 優子 (Ph.D.)

- みずほ証券(株)グローバル投資銀行部門ディレクターを経て、2020年5月に当社入社
- 東京大学にて博士課程修了(工学)

ペプチドリーム 社外取締役



独立社外取締役(監査等委員)
神谷 紀一郎

- ・ ヘキスト・ジャパン(株)、JSR(株)上席執行役員、JSRライフサイエンス(株)取締役社長、(株)医学生物学研究所(MBL) 取締役を経て、2025年3月に当社取締役(監査等委員)就任
- ・ 現在、当社独立社外取締役(監査等委員)



独立社外取締役(監査等委員)
宇都宮 純子(弁護士)

- ・ 長嶋・大野・常松法律事務所、宇都宮・清水・陽来法律事務所開設パートナーを経て、2021年3月に当社取締役(監査等委員)就任
- ・ 現在、当社独立社外取締役(監査等委員)



独立社外取締役(監査等委員)
花房 幸範(公認会計士)

- ・ 青山監査法人を経て、アカウンティングワークス(株)設立代表取締役、アークランドサービス(株)(現アークランドサービスホールディングス(株))監査役を経て、2017年9月に当社取締役(監査等委員)就任
- ・ 現在、当社独立社外取締役(監査等委員)



独立社外取締役(監査等委員)
西山 潤子

- ・ ライオン油脂(株)(現 ライオン(株))入社。購買本部製品部長、生産本部第2生産管理部製品購買担当部長、研究開発本部包装技術研究所長、CSR推進部長、同社常勤監査役を経て、2025年3月に当社取締役(監査等委員)就任
- ・ (株)荏原製作所 社外取締役(監査委員会委員、現任)、戸田建設(株)社外監査役(現任)
- ・ 現在、当社独立社外取締役(監査等委員)

当社をカバーする証券アナリスト一覧

会社名(五十音順)	アナリスト(敬称略)
岩井コスモ証券	斎藤 和嘉
株式会社エース経済研究所	池野 智彦
SMBC日興証券株式会社	和田 浩志
株式会社SBI証券	川村 龍太
ゴールドマン・サックス証券株式会社	植田 晃然
ジェフリーズ証券会社	山木田 雅
シティグループ証券株式会社	山口 秀丸
大和証券株式会社	橋口 和明
野村證券株式会社	松原 弘幸
丸三証券株式会社	大野 剛
みずほ証券株式会社	石田 優理子

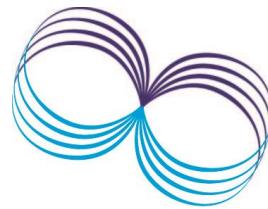
将来見通しに関する留意点

本資料に記載されている将来に関する記述を含む過去の事実以外のすべての記述は、当社が現在入手している情報に基づく現時点における計画、予測、想定、戦略等を基礎として記載されている見通しであり、未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。様々な要因によって、これらの将来の見通しと実際の結果が大きく異なる可能性があることをご承知ください。

その要因としては、(1) 創薬・医薬品開発に伴う遅延・中断リスク、(2) クライアントの方針転換による予期せぬプログラムの中止・終了リスク、(3) 製品の製造や原材料の調達に関するリスク、(4) 競合企業・競合技術の出現による競争力低下の影響、(5) 製品販売力の低下、(6) 当社グループの知的財産権に対する侵害あるいは重大な訴訟における不利な判決、(7) 経済情勢の悪化や関係法規制の改正、(8) 金利・通貨為替の変動等が考えられますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告・医学的アドバイスを目的としているものではありません。

本資料は、当社グループの事業に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、本資料に記載されている情報の誤り等により生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。



PeptiDream
Revolutionizing Drug Discovery

ペプチドリームグループのミッション
医療のあり方や患者さんの人生に
変革をもたらす次世代医薬品の創出